

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム玉里 二階
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県鹿児島市玉里団地二丁目5-1
記入者名 (管理者)	管理者 川崎 富美子
記入日	平成 21年 9月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	利用者も団地内の人が多く隣近所の方もお見舞いにみえるので暖かく迎えるようにしたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	団地内での運動会や、団地で行われている保健所主催の健康教室に参加できるようにしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在、入居者の介護と安全を守ることに全力を挙げていて、他のことを話し合う努力はしているが、いまだ充分とはいえない。	○	将来的に取り組みたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	過去数回外部評価を受けたが、職員はその意義を理解し、指摘された事、注意された事はその都度改善している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括センターの方々の参加を得て御意見を頂いてサービスの向上に努めている。	○	町内会長や民生委員の方はお仕事を理由に欠席される事が多くあるので、今後団地内の役員の複数の方をお願いして、グループホームのサービス等についてのご意見を頂くようにしたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	理事長が町内会に入会し、町内会のイベントの度に出席し要望を話し合う機会を持ち、サービスの質の向上に取り組んでいる。	○	町内会の方のボランティアを要望する。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者の中に成年後見人制度を必要とされた方がおられ、主治医の意見書を作成してもらい、家庭裁判所からの訪問もあった。 2名の職員は市民講座の成年後見人制度について学ぶ機会を得た。	○	市民講座で後見人制度について学ぶ機会もあるのですべての職員がこの講座を受講し見聞を広めるようにして行きたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を増やしたい。	○	どのような事が虐待にあたるのか全員で話し合っ行ってきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> <p>時間をとって丁寧に説明している。特に利用料金や入居によるリスク、重度化、看取りについての対応、医療体制の実状等について詳しく説明している。</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>職員は努めて入居者と話す機会をつくり、不満、苦情を聞くようにしている。一部の入居者は自由に外出ができない不満をもっておられるので散歩やスーパー等の買い物にスタッフと一緒に出かけ、不満を和らげている。</p>	○	管理者は利用者の面会時、お話を聴く時間を今まで以上にもうけるに努める。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p> <p>ほとんどの家族が週1回位、中には毎日面会に見えるので、その都度入居者の近況を伝えている。又、預かり金の管理をし、御家族へ報告している。</p>	○	イベントを開催した際の写真等や入居者の近況を定期的に伝えるようにしたい。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>行事の時や家族面会時に御家族から意見や不満、苦情を聞くようにしている。入り口にご意見箱を設けている。</p>	○	御意見箱の利用はほとんどないが、積極的に利用して頂くように工夫する。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> <p>毎朝のミーティングは、入居者の状態の報告ばかりでなく、職員の意見や提案を聴き運営に反映させている。</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> <p>急な欠勤者が出て、利用者のケアに不足が生じないよう、事前に職員の希望を聞いて勤務表を作成する為、職員は確保されている。 現在3:1の介護をしているが利用者の重度化、イベントの際は4:1の体制で臨んでいる。</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> <p>認知症の方には馴染みの関係が大切だと考え、職員の異動は最小限にしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内により、それぞれの段階に応じた研修を受講する機会を確保している。	○ 研修を受けた職員の研修報告をミーティングの時に発表するようにする。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は認知症とご家族の会、の会員であり、会のイベントで他の施設を見学したり、勉強会に出席してサービスの質向上を目指して努力している。	○ 隣接地にグループホーム、デイサービスも出来たので施設を見学したり、職員との交流をはかりながら優れたサービスがあったら参考にしたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の疲労やストレスの要因について気を配り勤務時間にも気分転換が出来る休憩室を確保したり、職員同士の人間関係を良くするよう努めている。	○ 職員のストレス軽減や職員同士の親睦をはかるために食事会、映画鑑賞等をおこなっていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	ヘルパー職員は介護福祉士、介護福祉士はケアマネジャーを目指し頑張ってもらえるよう教本その他参考資料を取り揃え、いつでも勉強できるよう配慮している。又職員が研修の受講を希望した場合には、受講が可能になるよう勤務の変更をしている。	○ 職員が向上心をもって働けるよう職場の条件を整えて行きたい。
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面接で生活状態を把握するように努めご本人の求めている事を理解するように努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族が求めているものを理解し、事業所としてはどのような対応ができるか事前に話し合っている。	○ 機会ある毎にご家族との話し合う機会を持つようにしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を希望される御家族に在宅サービス、通所サービスの利用が出来ないかどうか話をする。どうしても入居したいと言われる方には、本人と御家族の希望を第一に、どのようなサービスが必要かを考えている。(デイサービス、ショートステイ、訪問介護、通所サービス等)		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居等していただき、本人が馴染めるかどうか、納得し安心した上で入居を決めていただく事もある。	○	家族が希望していても本人が納得されない場合が多いので、2,3日お茶の時間等に来ていただいて職員とのなじみの関係を作るようにして入所を決めたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の思いや根本にある苦しみ、不安、喜び等を知る事に努め暮らしの中で分かち合い共に支えあう関係づくりに留意している。	○	利用者の喜怒哀楽に関心を寄せながら一緒に過ごす時間を増やして行きたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の訪問も多く、食堂で一緒にお茶を飲んだりしながら、共に入居者を支える為の知恵を出し合っゆく関係を保つよう努めている。	○	利用者の趣味に応じて一緒に楽しめるように職員も努力したい。(囲碁、歌、体操、塗り絵、折り紙、パズル等)
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族が本人の暮らしにとって最も大切な人である事が、理解されるよう支援している。	○	出来るだけ面会に来ていただけるように御家族に協力をお願いしている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人、家族が気軽に訪問できるよう歓迎ムードで支援している。又、本人が行きたい所には御家族の協力をお願いしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の個性、他の入居者との相性等を見極めながら、良い関係が作られるように必要に応じて声かけし、又、食事、お茶時の席順を考えている。	○	職員は話を聴いたり相談に乗ったりしながら皆で仲良く暮らせるよう配慮して行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要時お電話いただいてアドバイスしたりしている。	○	退所された御家族に利用者の様子を時々尋ねたり、行事に招待したりしながら継続的なフォローをしていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の方の思いや希望はなかなか把握できないが、職員一同知恵を出し合い、その方の思いや希望を理解するよう努力している。	○	意思疎通が困難な方にはご家族や関係者から情報を得る。本人にとってどのように暮らすのが最善なのか家族と話あう機会を持ちたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者一人ひとりのサマリーや、本人、御家族の話をお聴くことにより把握し、なるべく以前の暮らしに近づけるよう努力している。	○	お茶の時間に昔の話を聴く機会を設けたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居前の職業を参考にしたりして一人ひとりの習慣、好み、持てる力等の現状を総合的に把握するよう努めている。 (出来る事は手伝ってもらうよう努力している)	○	利用者一人一人のできる力、わかる力を発見して行きたい。
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は本人やご家族と良く話し合い、課題を見つけ、職員の気づきや意見を採り入れて作っており、すべての職員が介護計画の内容を知ることが出来るようにしている。	○	本人がよりよく暮らすための課題やケアのあり方についてスタッフ全員で話し合う機会を今まで以上に持ちたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に実施期間を明示して、その期間が終了する際に見直しを行う事はもとより、状態変化に応じ随時見直しを行っている。	○	介護計画の遂行状況、効果等ご家族と話し合う機会を蜜にして行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護や介護計画に反映させるため、入居者一人ひとりの特徴や変化を具体的に記録し、ケアプランの見直しや対応に生かすようにしている。		
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして利用者にとって負担となる受診や入院の回避、早期退院の支援、医療処置をうけながらの生活の継続、重度化した場合や終末期の入院の回避等について支援している。		
の暮らし				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して地域で暮らしをつづけられるよう警察や民生委員と意見交換する機会をもうけている。	○	ボランティアセンターへの働きかけをし又、近隣住民によるボランティアの方々の協力を得るようにしていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホーム入居者は他のサービスを受けるのは自費になる為、余り他のサービス利用希望は無い。	○	地域の図書館や町内会が開催する健康教室に参加できるようにしたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括センターの職員に参加して頂いている。 困難事例や事業所内で解決出来ない問題等協働しながら利用者の支援に繋げている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同一敷地内にある母体医院への受診には職員が付き添っている。他科受診については、ご家族同伴で受診されるが主治医からの紹介状を持参してもらっている。 ご家族が同伴できない場合は職員が付き添うようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	認知症に対する勉強会を随時開催して行きたい。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	最後の時を家で過ごしたいと希望される利用者にとどの様な支援が必要なのかスタッフ全員と話し合っ行って行きたい。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人前であからさまに介護したり誘導の声かけをして本人を傷つけてしまわないように、目立たずさりげない声かけや対応に配慮している。	○ 個人情報保護法について学ぶ機会を設けたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員側で決めたことを押し付けるようなことをせず、複数の選択肢を提案し一人ひとりの利用者が自分で決める場面をつくっている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは持っているが時間を区切った過ごし方はしていない。 その日、その時の本人の気持ちを尊重し、出来るだけ個性のある支援を行っている。	
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理、美容院へカットに連れて行かれる御家族もあるが、ほとんどは職員が無料でカットしている。個性を大事にしたカットを心がけている。女の利用者の方にはお化粧品等なさを呼びかけている。	○ 職員による美顔術、顔そり等も考えている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは前日に利用者に聞いて決める事もある。硬いものや飲み込みにくい物については、見た目を大切にしながら小さく切ったり、つぶしたり等の配慮をしている。又、職員は同じテーブルで一緒に食事をしている。	○ お年寄りの好まれる郷土料理等を職員一同学んで行きたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在、酒、たばこを嗜む入居者はいない。おやつ、ジュース等は日常的にたのしめるよう支援している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排尿のパターンを把握して、さりげなく声をかけ、誘導をおこなっている。	○	オムツはずしに取り組みたい
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	バイタルチェックの結果をもとに本人の希望に沿って入浴してもらっている。	○	入浴を楽しむ為に散歩の途中で摘んできたヨモギ等乾燥させて入浴剤として利用してみたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中でも一休みできるようリビングにソファを置いている。又、心身の状態に応じて自室で休んでもらうこともある。	○	夜遅くまで起きている方には軽い茶菓を差し上げるようにしたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム内で入居者一人ひとりが楽しみごとや得意分野での出番を見出せるよう支援している。(テレビ番組、週刊誌、園芸、食器洗い、掃除、洗濯物たたみ、小動物の世話、新聞読み等)	○	職員も利用者の趣味に合わせ、相手が出来るように 囲碁、将棋、大正琴等学んでいきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方には財布を持っていただき、職員も一緒に管理している。	○	近くのスーパーと一緒に出かけ職員の見守りの中で買い物をして載せて利用者自身が支払いが出来るよう支援して行きたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	積極的に近所に出かけて楽しめる雰囲気を作っている。(買い物、散歩、近隣訪問、公園)	○	御家族にも声をかけ一緒に外出を楽しめるよう支援していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	施設のイベントとして、水族館見物、黎明館への花見や食事、健康の森公園、県民交流センター、ドルフィンポート等に出かけ外出を楽しんでいる。	○	おはら祭り、夏祭り、外食等に出かけている。クリスマスにはイルミネーションや観覧車を見物する予定がある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者に変わり電話番号をまわし、相手が出られたら入居者にお渡しし、職員は席を外すようにしている。	○	家族や友人に気軽に電話できるようにんわの設置場所や台数を増やす事も考えていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪問でき、訪問時は居心地良く過ごせるような雰囲気を作っていて、お菓子やお茶を一緒に召し上がっていたい。	○	他の利用者に気がねなく面会が出来るような場所を考えていきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないと言うことを、すべての職員が正しく認識しており、身体拘束のないケアを実践している。	○	高齢者の権利保護や身体拘束に関する勉強会を随時行っていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の自由な暮らしを支え、入居者や御家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてすむような配慮をしている。	○	面会に来られる方の事も考えられる範囲でカギをかける時間をおそくするような取り組みをしたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に入居者を見守りやすい場所において、入居者一人ひとりの位置と様子を把握している。 (入居者の側で記録をする等)		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要な物品は職員控え室に保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書を作成しており、職員全員で検討したり、すぐに対策を立てる等、事故が再発しないようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ケガ、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態対応のマニュアルやビデオがあり、職員は、随時勉強するよう義務付けられている。	○	実技の継続的な演習を行うようにして行きたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方等の訓練を行っている。	○	緊急連絡網を作成し職員に渡してあり、すぐかけつけられるようにするとともに、地域の人々の協力を得られるように働きかけて行きたい
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	環境の変化によるリスク等について、ご家族と話し合い、対策を御家族と共に考えている		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝、夕2回のバイタルチェックを行い、入居者ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるようすべての職員が注意している。 現況により医療受診に繋げている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者個々の薬の目的を周知しており、正しく服薬できるよう支援している。服薬のもれが無いよう十分に気をつけている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	戸外への散歩による適度な運動や、おやつヨーグルト等工夫して自然排便に力を入れている。	○	便秘予防のための体操等取り入れて行きたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	入居者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。 就寝時には義歯の洗浄を行っている。	○	口腔ケアについての研修をおこないたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考えた献立(1日30品目使用)を作り、その日一人ひとりの摂取量をチェックして日誌につけ、大まかな摂取量を把握している。水分摂取量は特に気をつけている。	○	栄養士の方にメニューのバランス等、チェックをお願いしたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 [インフルエンザ等の予防注射]	○	感染症や食中毒によるマニュアルの作成をする。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は新鮮なものを購入し、調理用具等はすべて熱湯消毒する。 スーパーが近いので毎日買い物に行っている。	○	残った食材が古くならないうちに使用するように冷蔵庫の整理日を決めたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホームの玄関は1階にあるが、入りやすいようドアを開放している。	○	明るい雰囲気のある玄関になるようにプランターや花等季節を感じるよう飾っていききたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンの利用、テレビの音声の調整やテーブルに季節の花等を飾り、入居者が居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	フロアの飾りつけや家具の配置等、利用者と一緒に考えて利用者が自分の住んでいる家だと思っていただける意識を高めていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間の中に、入居者が一人になったり、気の合った入居者同士で自由に過ごせるような居場所を確保している。	○	玄関ホールにテーブルやいすを置きおやつを食べたりレクリエーションをしたりする場所を作りたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。	○	大きなタンス、ミシン等入居前に使用されていた家具等の受け入れ体制について検討する。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝、窓を大きく開けて、空気の入換えをしている。冷暖房の温度調節(常温の+、-5・で)、冷やし過ぎや暖め過ぎがないように適切におこなっている。	○	トイレは消毒剤を使用しないで掃除をするようにして、悪臭の出ない工夫をすることに取り組みたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面所、物干しは高さがお年寄りに合わせて低くなっており、又、トイレには手すりが配置されている。	○	自立支援のため利用者の能力に応じた仕事を考える。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	鉢物への水掛をして頂いたり、洗濯物の取り込み、たたみ分け等手伝っていただいている。混乱や失敗もあるが、落ち込まれないよう声かけ等に努めている。	○	一人一人の力を見極めて不安や失敗を招くような環境や物品について検討して行きたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先やベランダで植木の手入れや水やりをしたり、日向ぼっこ等が出来るような空間の工夫をしている。又、ベランダで花木の鉢物を育てている、入居者持込の花鉢もある。	○	ベランダの鉢、花や実のなる木を利用者と共に育てて行きたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

母体医院の協力が得られるので、糖尿病やガン等のある利用者も積極的に受け入れて、看取りを行っている。今後も病気を理由に入居を断ることなく、全職員がタンの吸引やミキサー食の作成等が上手に出来るように、研修をしてゆきたい。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム玉里 三階
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県鹿児島市玉里団地二丁目5-1
記入者名 (管理者)	管理者 川崎 富美子
記入日	平成 21年 9月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	認知症の方が、地域の中で当たり前暮らし続けることの大切さを考え、理念を作り上げて介護従業員と日常的に話し合っている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の介護のなかで理念に基づく運営方針を職員に具体的に話し、更に目配り、気配り、心配りをモットーとして日々努力している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホームの理念を、利用案内時の説明文書及びホームの見やすい所に示し、又、入居者及びその御家族等に分かりやすく説明している。地域の行事への参加等で地域の方々の理解を得るよう努力している。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	職員はホームと同じ団地出身者が多く、又、職員駐車場も団地内にあり、設立6年目を迎え隣近所の人々とは顔馴染みになり朝夕の挨拶は勿論、時には花や野菜を頂くこともある。	○	利用者も団地内の人が多く隣近所の方もお見舞いにみえるので暖かく迎えるようにしたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの開設時は地区の集会に積極的に出かけ地元の人との交流もあったが現在は町内会の夏祭りに参加するだけである。	○	団地内での運動会や、団地で行われている保健所主催の健康教室に参加できるようにしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在、入居者の介護と安全を守ることに全力を挙げていて、他のことを話し合う努力はしているが、いまだ充分とはいえない。	○	将来的に取り組みたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	過去数回外部評価を受けたが、職員はその意義を理解し、指摘された事、注意された事はその都度改善している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括センターの方々の参加を得て御意見を頂いてサービスの向上に努めている。	○	町内会長や民生委員の方はお仕事を理由に欠席される事が多くあるので、今後団地内の役員の複数の方をお願いして、グループホームのサービス等についてのご意見を頂くようにしたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	理事長が町内会に入会し、町内会のイベントの度に出席し要望を話し合う機会を持ち、サービスの質の向上に取り組んでいる。	○	町内会の方のボランティアを要望する。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者の中に成年後見人制度を必要とされた方がいない。2名の職員は市民講座の成年後見人制度について学ぶ機会を得たので、必要な方が出て来られたら活用し支援する。	○	市民講座で後見人制度について学ぶ機会もあるのですべての職員がこの講座を受講し見聞を広めるようにして行きたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を増やしたい。	○	どのような事が虐待にあたるのか全員で話し合っ行って行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> <p>時間をとって丁寧に説明している。特に利用料金や入居によるリスク、重度化、看取りについての対応、医療体制の実状等について詳しく説明している。</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>職員は努めて入居者と話す機会をつくり、不満、苦情を聞くようにしている。一部の入居者は自由に外出ができない不満をもっておられるので散歩やスーパー等の買い物にスタッフと一緒に出かけ、不満を和らげている。</p>	○	管理者は利用者の面会時、お話を聴く時間を今まで以上にもうけるに努める。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p> <p>ほとんどの家族が週1回位、中には毎日面会に見えるので、その都度入居者の近況を伝えている。又、預かり金の管理をし、御家族へ報告している。</p>	○	イベントを開催した際の写真等や入居者の近況を定期的に伝えるようにしたい。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>行事の時や家族面会時に御家族から意見や不満、苦情を聞くようにしている。入り口にご意見箱を設けている。</p>	○	御意見箱の利用はほとんどないが、積極的に利用して頂くように工夫する。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> <p>毎朝のミーティングは、入居者の状態の報告ばかりでなく、職員の意見や提案を聴き運営に反映させている。</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> <p>急な欠勤者が出て、利用者のケアに不足が生じないよう、事前に職員の希望を聞いて勤務表を作成する為、職員は確保されている。 現在3:1の介護をしているが利用者の重度化、イベントの際は4:1の体制で臨んでいる。</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> <p>認知症の方には馴染みの関係が大切だと考え、職員の異動は最小限にしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内により、それぞれの段階に応じた研修を受講する機会を確保している。	○ 研修を受けた職員の研修報告をミーティングの時に発表するようにする。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は認知症とご家族の会、の会員であり、会のイベントで他の施設を見学したり、勉強会に出席してサービスの質向上を目指して努力している。	○ 隣接地にグループホーム、デイサービスも出来たので施設を見学したり、職員との交流をはかりながら優れたサービスがあったら参考にしたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の疲労やストレスの要因について気を配り勤務時間にも気分転換が出来る休憩室を確保したり、職員同士の人間関係を良くするよう努めている。	○ 職員のストレス軽減や職員同士の親睦をはかるために食事会、映画鑑賞等をおこなっていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	ヘルパー職員は介護福祉士、介護福祉士はケアマネジャーを目指し頑張ってもらえるよう教本その他参考資料を取り揃え、いつでも勉強できるよう配慮している。又職員が研修の受講を希望した場合には、受講が可能になるよう勤務の変更をしている。	○ 職員が向上心をもって働けるよう職場の条件を整えて行きたい。
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面接で生活状態を把握するように努めご本人の求めている事を理解するように努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族が求めているものを理解し、事業所としてはどのような対応ができるか事前に話し合っている。	○ 機会ある毎にご家族との話し合う機会を持つようにしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を希望される御家族に在宅サービス、通所サービスの利用が出来ないかどうか話をする。どうしても入居したいと言われる方には、本人と御家族の希望を第一に、どのようなサービスが必要かを考えている。(デイサービス、ショートステイ、訪問介護、通所サービス等)		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居等していただき、本人が馴染めるかどうか、納得し安心した上で入居を決めていただく事もある。	○	家族が希望していても本人が納得されない場合が多いので、2,3日お茶の時間等に来ていただいて職員とのなじみの関係を作るようにして入所を決めたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の思いや根本にある苦しみ、不安、喜び等を知る事に努め暮らしの中で分かち合い共に支えあう関係づくりに留意している。	○	利用者の喜怒哀楽に関心を寄せながら一緒に過ごす時間を増やして行きたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の訪問も多く、食堂で一緒にお茶を飲んだりしながら、共に入居者を支える為の知恵を出し合っゆく関係を保つよう努めている。	○	利用者の趣味に応じて一緒に楽しめるように職員も努力したい。(囲碁、歌、体操、塗り絵、折り紙、パズル等)
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族が本人の暮らしにとって最も大切な人である事が、理解されるよう支援している。	○	出来るだけ面会に来ていただけるように御家族に協力をお願いしている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人、家族が気軽に訪問できるよう歓迎ムードで支援している。又、本人が行きたい所には御家族の協力をお願いしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の個性、他の入居者との相性等を見極めながら、良い関係が作られるように必要に応じて声かけし、又、食事、お茶時の席順を考えている。	○	職員は話を聴いたり相談に乗ったりしながら皆で仲良く暮らせるよう配慮して行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要時お電話いただいてアドバイスしたりしている。	○	退所された御家族に利用者の様子を時々尋ねたり、行事に招待したりしながら継続的なフォローをしていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の方の思いや希望はなかなか把握できないが、職員一同知恵を出し合い、その方の思いや希望を理解するよう努力している。	○	意思疎通が困難な方にはご家族や関係者から情報を得る。本人にとってどのように暮らすのが最善なのか家族と話あう機会を持ちたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者一人ひとりのサマリーや、本人、御家族の話をお聴くことにより把握し、なるべく以前の暮らしに近づけるよう努力している。	○	お茶の時間に昔の話を聴く機会を設けたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居前の職業を参考にしたりして一人ひとりの習慣、好み、持てる力等の現状を総合的に把握するよう努めている。 (出来る事は手伝ってもらうよう努力している)	○	利用者一人一人のできる力、わかる力を発見して行きたい。
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は本人やご家族と良く話し合い、課題を見つけ、職員の気づきや意見を採り入れて作っており、すべての職員が介護計画の内容を知ることが出来るようにしている。	○	本人がよりよく暮らすための課題やケアのあり方についてスタッフ全員で話し合う機会を今まで以上に持ちたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に実施期間を明示して、その期間が終了する際に見直しを行う事はもとより、状態変化に応じ随時見直しを行っている。	○	介護計画の遂行状況、効果等ご家族と話し合う機会を蜜にして行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護や介護計画に反映させるため、入居者一人ひとりの特徴や変化を具体的に記録し、ケアプランの見直しや対応に生かすようにしている。		
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして利用者にとって負担となる受診や入院の回避、早期退院の支援、医療処置をうけながらの生活の継続、重度化した場合や終末期の入院の回避等について支援している。		
の暮らし				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して地域で暮らしをつづけられるよう警察や民生委員と意見交換する機会をもうけている。	○	ボランティアセンターへの働きかけをし又、近隣住民によるボランティアの方々の協力を得るようにしていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホーム入居者は他のサービスを受けるのは自費になる為、余り他のサービス利用希望は無い。	○	地域の図書館や町内会が開催する健康教室に参加できるようにしたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括センターの職員に参加して頂いている。 困難事例や事業所内で解決出来ない問題等協働しながら利用者の支援に繋げている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同一敷地内にある母体医院への受診には職員が付き添っている。他科受診については、ご家族同伴で受診されるが主治医からの紹介状を持参してもらっている。 ご家族が同伴できない場合は職員が付き添うようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	母体医院の主治医より、認知症に関する知識を得ることが出来るし毎週1回ドクターの往診もある。	○	認知症に対する勉強会を随時開催して行きたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護師である為、医療と介護の両面から利用者を支える体制が整っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	設置主体である内科のドクターに何でも相談でき、往診や他科受診時の紹介状の作成等お願いしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化や終末期のあり方について、御家族と話し合いをし意思確認書を作成し、職員も方針を共有している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	「出来ること、出来ないこと」を見極め、入院していただくことも選択肢の一つであるが、母体病院の支援もあり、本人や御家族が望まれば、ホームでの看取りも行っている。	○	最後の時を家で過ごしたいと希望される利用者にとどの様な支援が必要なのかスタッフ全員と話し合って行きたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の施設への住み替えの例はないが、今後あればサマリーを作成して情報を提供し、十分な話し合いによって、ダメージを防ぐようにしてゆきたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人前であからさまに介護したり誘導の声かけをして本人を傷つけてしまわないように、目立たずさりげない声かけや対応に配慮している。	○ 個人情報保護法について学ぶ機会を設けたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員側で決めたことを押し付けるようなことをせず、複数の選択肢を提案し一人ひとりの利用者が自分で決める場面をつくっている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは持っているが時間を区切った過ごし方はしていない。 その日、その時の本人の気持ちを尊重し、出来るだけ個性のある支援を行っている。	
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理、美容院へカットに連れて行かれる御家族もあるが、ほとんどは職員が無料でカットしている。個性を大事にしたカットを心がけている。女の利用者の方にはお化粧品等なさを呼びかけている。	○ 職員による美顔術、顔そり等も考えている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは前日に利用者に聞いて決める事もある。硬いものや飲み込みにくい物については、見た目を大切にしながら小さく切ったり、つぶしたり等の配慮をしている。又、職員は同じテーブルで一緒に食事をしている。	○ お年寄りの好まれる郷土料理等を職員一同学んで行きたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在、酒、たばこを嗜む入居者はいない。おやつ、ジュース等は日常的にたのしめるよう支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排尿のパターンを把握して、さりげなく声をかけ、誘導をおこなっている。	○	オムツはずしに取り組みたい
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	バイタルチェックの結果をもとに本人の希望に沿って入浴してもらっているようにしている。	○	職員のローテーションの工夫をして朝風呂や夜間入浴等利用者の希望に応じた支援が出来るようにしたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中でも一休みできるようリビングにソファを置いている。又、心身の状態に応じて自室で休んでもらうこともある。	○	20時以降テレビ等観て休めない利用者にはお茶とお菓子等さしあげるようにしたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム内で入居者一人ひとりが楽しみごとや得意分野での出番を見出せるよう支援している。(テレビ番組、週刊誌、園芸、食器洗い、掃除、洗濯物たたみ、小動物の世話、新聞読み等)	○	職員も利用者の趣味に合わせ、相手が出来るように 囲碁、将棋、大正琴等学んでいきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方には財布を持っていただき、職員も一緒に管理している。	○	近くのスーパーと一緒に出かけ職員の見守りの中で買い物をして載せて利用者自身が支払いが出来るよう支援して行きたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	積極的に近所に出かけて楽しめる雰囲気を作っている。(買い物、散歩、近隣訪問、公園)	○	御家族にも声をかけ一緒に外出を楽しめるよう支援していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	施設のイベントとして、水族館見物、黎明館への花見や食事、健康の森公園、県民交流センター、ドルフィンポート等に出かけ外出を楽しんでいる。	○	おはら祭り、夏祭り、外食等に出かけている。クリスマスにはイルミネーションや観覧車を見物する予定がある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者に変わり電話番号をまわし、相手が出られたら入居者にお渡しし、職員は席を外すようにしている。	○	家族や友人に気軽に電話できるようにんわの設置場所や台数を増やす事も考えていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪問でき、訪問時は居心地良く過ごせるような雰囲気を作っていて、お菓子やお茶を一緒に召し上がっていたい。	○	他の利用者に気がねなく面会が出来るような場所を考えていきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないと言うことを、すべての職員が正しく認識しており、身体拘束のないケアを実践している。	○	高齢者の権利保護や身体拘束に関する勉強会を随時行っていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の自由な暮らしを支え、入居者や御家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてすむような配慮をしている。	○	面会に来られる方の事も考えられる範囲でカギをかける時間をおそくするような取り組みをしたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に入居者を見守りやすい場所において、入居者一人ひとりの位置と様子を把握している。 (入居者の側で記録をする等)		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要な物品は職員控え室に保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書を作成しており、職員全員で検討したり、すぐに対策を立てる等、事故が再発しないようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ケガ、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態対応のマニュアルやビデオがあり、職員は、随時勉強するよう義務付けられている。	○	実技の継続的な演習を行うようにして行きたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方等の訓練を行っている。	○	緊急連絡網を作成し職員に渡してあり、すぐかけつけられるようにするとともに、地域の人々の協力を得られるように働きかけて行きたい
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	環境の変化によるリスク等について、ご家族と話し合い、対策を御家族と共に考えている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝、夕2回のバイタルチェックを行い、入居者ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるようすべての職員が注意している。 現況により医療受診に繋げている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者個々の薬の目的を周知しており、正しく服薬できるよう支援している。服薬のもれが無いよう十分に気をつけている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	戸外への散歩による適度な運動や、おやつヨーグルト等工夫して自然排便に力を入れている。	○	便秘予防のための体操等取り入れて行きたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	入居者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。 就寝時には義歯の洗浄を行っている。	○	口腔ケアについての研修をおこないたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考えた献立(1日30品目使用)を作り、その日一人ひとりの摂取量をチェックして日誌につけ、大まかな摂取量を把握している。水分摂取量は特に気をつけている。	○	栄養士の方にメニューのバランス等、チェックをお願いしたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 [インフルエンザ等の予防注射]	○	感染症や食中毒によるマニュアルの作成をする。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は新鮮なものを購入し、調理用具等はすべて熱湯消毒する。 スーパーが近いので毎日買い物に行っている。	○	残った食材が古くならないうちに使用するように冷蔵庫の整理日を決めたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホームの玄関は1階にあるが、入りやすいようドアを開放している。	○	明るい雰囲気のある玄関になるようにプランターや花等季節を感じるよう飾っていききたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンの利用、テレビの音声の調整やテーブルに季節の花等を飾り、入居者が居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	フロアの飾りつけや家具の配置等、利用者と一緒に考えて利用者が自分の住んでいる家だと思っていただける意識を高めていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間の中に、入居者が一人になったり、気の合った入居者同士で自由に過ごせるような居場所を確保している。	○	玄関ホールにテーブルやいすを置きおやつを食べたりレクリエーションをしたりする場所を作りたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。	○	大きなタンス、ミシン等入居前に使用されていた家具等の受け入れ体制について検討する。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝、窓を大きく開けて、空気の入換えをしている。冷暖房の温度調節(常温の+、-5・で)、冷やし過ぎや暖め過ぎがないように適切におこなっている。	○	トイレは消毒剤を使用しないで掃除をするようにして、悪臭の出ない工夫をすることに取り組みたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面所、物干しは高さがお年寄りに合わせて低くなっており、又、トイレには手すりが配置されている。	○	自立支援のため利用者の能力に応じた仕事を考える。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	鉢物への水掛をして頂いたり、洗濯物の取り込み、たたみ分け等手伝っていただいている。混乱や失敗もあるが、落ち込まれないよう声かけ等に努めている。	○	一人一人の力を見極めて不安や失敗を招くような環境や物品について検討して行きたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先やベランダで植木の手入れや水やりをしたり、日向ぼっこ等が出来るような空間の工夫をしている。又、ベランダで花木の鉢物を育てている、入居者持込の花鉢もある。	○	ベランダの鉢、花や実のなる木を利用者と共に育てて行きたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

母体医院の協力が得られるので、糖尿病やガン等のある利用者も積極的に受け入れて、看取りを行っている。今後も病気を理由に入居を断ることなく、全職員がタンの吸引やミキサー食の作成等が上手に出来るように、研修をしてゆきたい。